

## 福井県内科医会学術講演会

### 「内科 vs AI : AI の能力と限界」

東京慈恵会医科大学 人工知能医学研究部部長／教授  
中田 典生 先生

AI の医学領域での使用状況、活用の仕方、今後の研究の進むべき方向など、広範にわたる講演であった。

過去 6 年間の医師国家試験の合格率は Chat GPT4 でいずれも 85%以上の成績で合格。廉価版（無料）は不合格であった。知識のみを問う設問は完璧に回答できるが、手技的なもの、法令に関するものは誤答であったが、これは AI が身体を使う体験や日本の法令を検索していないからである。

学会発表、論文作成でも AI の使用は汎用されていて、質疑応答の予測、座長の対応まで可能となった。よりの確な回答を得るためには AI に対して何科の医師であるかを明確にすることが肝要である。

大規模言語モデルが開発され Chat GPT が出現した。更に人の大脳機能、特に視覚野である後頭葉と言語中枢のある側頭葉、感覚野のある頭頂葉、そして発想に関連する連合野（前頭野）との神経ネットワークに結びつけていく研究が注目されている。

現在 AI が苦手とする分野は患者さんの心理状態の解析、医師の手技的な技量、経験を通じて蓄積されるいわゆる経験値である。

AI の知識の集積はヒトより遥かに勝るものであるから、医師は AI をうまく活用しながら患者との人間関係を構築していくことが大切である。

（福井中央クリニック理事長 久津見 恭典）